

平成27年4月から 子育て支援センターの事業を充実 ～子育てしやすい津市を目指して～



平成27年1月20日

子育て家庭を取り巻く環境の変化

背景

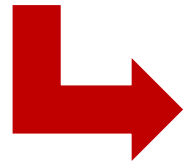
- ・保育園や幼稚園に通うまでの間は家庭で子育て(特に低年齢児)
- ・核家族化、地域のつながりの希薄化の進行
- ・男性の子育てへの関わりが少ない
- ・児童数の減少

課題

- ・子育てが孤立化し、子育ての不安、ストレスの増加
- ・子育て中の同世代の親と子どもが交流する機会(場)が少ない
- ・地域で子育てを支える環境の減少

子育て支援センター
を設置
(市内に12カ所)

子育て中の親と子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・
悩みを相談できる場を提供(地域の子どもは地域で育てる)



子育て支援センターの利用ニーズは年々増加！

子育て支援センターの目的と事業内容

目的

家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大等に対応するため、地域において子育て中の親と子の交流等を促進する子育て支援センターの設置を推進することにより、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援

事業内容

- ①交流の場の提供・交流促進 → 親子の友達づくりができる
- ②子育てに関する相談・援助 → 気軽に相談できる
- ③地域の子育て関連情報提供 → 子育てに役立つ情報が得られる
- ④子育て・子育て支援に関する講習等 → 親子の育ちの支援

利用のニーズ量と確保の方策①

平成27年度から子ども・子育て支援新制度がスタート

- 子ども・子育て支援新制度で「地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）」が、地域子ども・子育て支援事業の一つに位置付けられている
- 子育て支援センターの現在の提供量は利用ニーズ量より不足しているため、利用に係る提供量を今後5年間で1月当たり約1,200人増やしていく必要がある

津市全体 1月当たりのニーズ量などの状況

ニーズ量(※)	現在の提供量	不足数	現在の施設数
9,672人	8,491	▲1,181人	12カ所

(※)アンケート調査から推計

利用のニーズ量と確保の方策②

地域	ニーズ量	提供量	過不足
津	5,666人	3,193人	▲2,473人
久居	1,767人	2,427人	660人
河芸	692人	561人	▲131人
芸濃	321人	203人	▲118人
美里	78人	59人	▲19人
安濃	290人	447人	157人
香良洲	117人	417人	300人
一志	477人	542人	65人
白山	235人	625人	390人
美杉	29人	17人	▲12人
合計	9,672人	8,491人	▲1,181人

H25年11月「子ども・子育て支援に関するアンケート」調査結果から平成27年度に係る1月当たりのニーズ量を地域別に推計

課題

地域別にみると、**津地域**の提供量が大きく不足しているため、重点的に充実させる必要がある

解決策

子育て支援センターの増設

「津地域」の子育て支援センターの設置状況と見直し

現在の設置状況

北部	①白 塚
中部	②新 町
南部	③高茶屋 ④高茶屋 ⑤雲 出
計	5カ所



見直し

北部	1カ所 → 2カ所 【1カ所増設】 (仮称)桜橋子育て支援センター
中部	1カ所 → 2カ所 【1カ所増設】 大門いここ広場
南部	現状と同じ(3カ所)
計	7カ所【2カ所増設】

「津地域」の子育て支援センターの設置と見直し内容

北部 (仮称)桜橋子育て支援センター

本年3月に廃止する療育センター(桜橋)の跡地を活用して、週3日開催の子育て支援センター事業を実施



中部 大門いこにこ広場

現在、商店街の空き店舗で実施している「大門いこにこ広場」に、週3日開催の子育て支援センター事業を実施



その他

- 南が丘地区(南が丘会館)での実施を検討
- 南部の高茶屋保育園での実施日数の見直し



「津地域以外」の事業の充実と見直し

芸濃子育て支援センターを「げいのうわんぱーく」へ移転

芸濃保健福祉センター内

芸濃子育て
支援センター

室内の利用

移転

遊びの
選択肢が
広がる

げいのうわんぱーく内
(平成27年4月開設予定)

芸濃子育て
支援センター

屋内外の
広い空間を利用

子育て支援センターの予算(案)

平成26年度当初予算

子育て支援センター(12カ所)	62,180千円	ニーズ量 9,672人 提供量 8,491人 不足数 ▲1,181人
-----------------	----------	--

平成27年度当初予算(案)

既存分	子育て支援センター(12カ所)	62,180千円	提供量 8,491人
増設分	(仮称)桜橋子育て支援センター	4,814千円	提供量 350人増
	大門いここ広場	3,583千円	提供量 350人増
合計	子育て支援センター(14カ所)	70,577千円	ニーズ量 9,672人 提供量 9,191人 不足数 ▲481人

映画「WOOD JOB!～神去なあなあ日常～」× 三重県津市

第5回ロケーションジャパン大賞

津市がロケ支援度部門賞を受賞



平成27年1月20日

第5回ロケーションジャパン大賞 ロケ支援度部門賞を津市が受賞

受賞日

平成27年1月15日受賞

内容

第5回ロケーションジャパン大賞 ロケ支援度部門

作品×地域

映画「WOOD JOB!～神去なあなあ日常～」×三重県津市

選定ポイント

「いい映画を撮りたい」、そんな撮影隊の思いに応える地元の協力は、作品を支える重要な力。ロケ地提供だけでなく、地域の様々な支援がポイントとなる

ロケーションジャパン大賞とは

「ロケ地から日本を元気に！」をテーマに、
日本全国のロケ地を追う『LOCATION JAPAN
[ロケーション ジャパン]』が、その年一番人を動かし、
まちの観光を活発化させた作品と地域へ贈る賞

※LOCATION JAPAN [ロケーション ジャパン] とは、
株式会社地域活性プランニングが発行する雑誌
“ロケ地でもっと、ワクワクする旅”を合言葉に、
国内の映画・ドラマの舞台やロケ地を応援

ロケーションジャパン大賞選考基準・各賞

選考基準

観光客側

- ①支持率(行きたくなかったロケ地かどうかを2,000名にアンケート)
- ②行楽度(ロケ地マップの有無、ツアーの有無など)

地域側

- ③ロケの支援度(地元のロケ協力度、住民の理解など)
- ④地域の変化(作品による経済効果やメディアへの露出など)

上記4つの指標を総合的にポイント化し、各賞を決定

ロケーションジャパン大賞

グランプリ

準グランプリ

部門賞

支持率部門

行楽度部門

ロケ支援度部門

地域の変化部門

特別賞

取り組み内容

評価された取り組み

- ・津市によるロケへの全面協力体制
- ・市民によるエキストラ協力(ふんどし一丁での撮影)
- ・地域住民有志による映画のPR活動(神去村青年団)

その他の取り組み

- ・撮影ポイント選定への協力
- ・地元の言葉の助言・紹介
- ・美術作業場・宿泊場所探しへの協力
- ・車両の提供
- ・弁当の特別配達 など



町ぐるみの
支援として
評価

映画PR等の主な取り組み

- 三重県と連携し、ロケ地マップを作成・配布
- ロケ地ツアーの開催(6月22日～8月31日の間に15回開催)
- ロケ地看板の作成(主要なロケ地7カ所に設置)
- WOOD JOB！神去なあなあ日常記念館の開館
(5月2日～8月31日)
- 首都圏などでのPR(三重テラス、赤坂サカス他)
- 山手線ラッピング電車によるPR
(3月25日～4月9日／1日13回～19回運行)
- 津市特別試写会の開催(平成26年5月2日)
- 地元有志で結成された“神去村青年団”によるPR